

ボランティアことはじめ

# 日本語ボランティア

## 日本語学習を支援して国際交流

言葉が不十分でも、外国人となんとかコミュニケーションがとれた経験はありませんか？ そんな国際交流の楽しさを、日本語ボランティアの活動に見ることができました。日本語の学習を通して“草の根”の国際交流を実践している「JCA 玉川」で、話を聞きました。

取材／山田壽江

区内に6教室ある「JCA 玉川」の木曜(午前)クラスを、玉川ボランティアビューローに訪ねました。

「私達は外国人に日本語を教えるのではなく、日本語の学習支援をしています。“共に学び合う”というのがJCAの趣旨です。ですから、JCA 玉川の日本語ボランティアになるために、特別な資格や経験は必要ありません。どちらかというとコミュニケーション力が大事です」と会長の田中るり子さん。

「原則、外国人学習者と日本語ボランティアとの1対1の授業です。木曜クラスに通う外国人は約30人。国籍はさまざまで、韓国、インド、中国、ネパールの方が多いですね」と副会長の荒川直子さん。

教材は特に決めず、テキストや

新聞、本など自由。時には子どもの学校の便りの読み方や書類の書き方の支援を求められることもあり、できる限り学習者に寄り添い、語学を介して日本での生活のサポートをしているとのこと。

実際に教室をのぞいてみると、自由に活気にあふれ、楽しい日本語の会話が弾んでいます。最近では、定年後に日本語ボランティア活動をする男性も増えているそう



課外授業風景



日本語ボランティアの宮本敦子さん(左)と学習者のアンジュさんがレッスン



田中るり子さん(右)と荒川直子さん

です。田中さんと荒川さんにやりがいを感じると「学習者の日本語上達が一番うれしいことですが、日本文化や日本への理解を深めてもらった時にやりがいを感じます。年に数回行う懇親会や課外授業も、お互いにとても有意義で楽しいひとときです。ボランティア同士のミーティングも毎週開き、意見交換の場としています」と話してくれました。

### JCA玉川

JCA玉川の日本語ボランティア募集は随時(定員に達している場合があるので要相談)。詳細は、玉川ボランティアビューロー、世田谷ボランティアセンターなどに設置のパンフレット(写真)で確認してください。



<http://ameblo.jp/jcatamagawa1/>

## ペットあれこれ

### 世田谷ペット介護事情②

## 元気そうに見えても老眼や心臓の病気に

取材／編集部

家族であり、友人であり、共に暮らすかけがえのない存在。前回の世田谷ペット介護事情では、「飼い主+ペットの年齢が80歳を越えたら健康診断を」と、東京都獣医師会理事で「動物のいのち救済基金」の活動を行っている獣医の天野芳二先生のお話を紹介しました。今回は、老眼と心臓の病気についてお伝えします。

「犬や猫にも、人間と同じように老眼

の症状が出てくる場合があります。水晶体の中心が濁った色になっていたら核硬化や白内障を疑います。緑内障や網膜剥離もあります。音に敏感になるなど、以前と違う反応が心配であれば、眼球の様子を見てください。異常があればすぐに受診を」。

また、犬の場合、10歳を超えると、その10～20%以上が心臓の病気にかかっているという調査結果があります(アニコム 家庭どうぶつ白書2014)。咳をする、呼吸が浅い、舌が紫色をしている、走らないなど、気になる症状があれば、心臓の病気の疑いがあります。特に小型犬は「僧帽弁閉鎖不全症」に注意が必要です。ペットの1年は、

人換算で4～5年。病気の進行も同じです。いつまでも、一緒に過ごすためにも、自分もペットも定期的な健康チェックは大切です。



天野芳二先生

「人と動物のより良い共生社会の構築を目指し、すべての生命(いのち)を守るための募金活動が『動物のいのち救済基金』です」。

<http://www.tvma.or.jp/>